

MIDORINET KUMAMOTO

熊本県土地改良事業団体連合会

「農業を下支えする、人と人のつながり」

私たち水土里ネット熊本は、子どもたちの明るい未来を見据え、職員一人ひとりがこの想いを胸にし、農業・農村を元気にする様々な取り組みをおこなっています。これからも私たちの活躍に是非ご期待ください。

Midorinet are fabulous!

～水土里ネットは最高だ!～

熊本、農業農村を
支える水土里ネット

KUMAMOTO
UKI
KAMIMASHIKI
TAMANA
KAMOTO
KIKUCHI
ASO
YATSUSHIRO
ASHIKITA
KUMA
AMAKUSA



熊本県土地改良事業団体連合会

水土里ネット熊本 ～農村に、彩りを。～



住所：熊本県熊本市北区龍田陳内3丁目15番1号
TEL：096-348-8801 FAX：096-348-8011
URL：<https://www.higosanae.or.jp/>

「くまもとの水土里ネット」ポスター

-Production record- SINCE2012



1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12

13	01 H24年度 活動が地域、熊本、日本、地球に寄与
	02 H25年度 多面的機能の発揮
	03 H26年度 地下水と土の保全
	04 H27年度 強い農業と活力ある農村
	05 H28年度 災害に負けない農業・農村
	06 H29年度 笑顔あふれる農業・農村
	07 H30年度 平成で果たした役割と新たな時代への展望
	08 R1年度 農村の美しさを影で支える水土里ネット
	09 R2年度 どんな時代でも立ち上げられる
	10 R3年度 田んぼのチカラが地域を守る大きなチカラに
	11 R4年度 みどりのチカラ、みんなにトドケ。
	12 R5年度 農業の美しさを味わう
	13 R6年度 緑の下力持ち

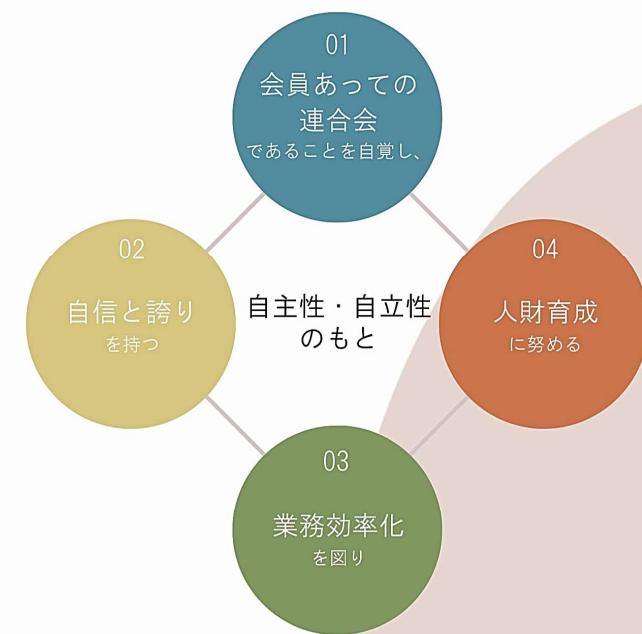
R7 vol.13

「水土里ネット」をコンセプトに、熊本県の農業を支える土地改良区の魅力や力強さを表現しました。フレーム内には「水」、「土」、「里」を連想できるような写真を配置。また、丸いフレームは土地改良区名を用いて作成し、水土里ネットが農業を支え、ネットワークとしての役割を示し、その重要性をすべての人に知ってもらいたいとの願いを込めています。

水土里ネット熊本とは

水土里ネット熊本は、技術者集団という枠に留まらず、地域の豊かな水・土・里を未来に繋げ、より良い農業・農村の在り方を熊本から全国に発信しています。そのため、職員一人ひとりが自主性・自立性のもと、会員あつての組織であることを自覚し、土地改良事業のプロフェッショナルとしてのプライドを持ち、最新鋭のツールを用いた効率的な業務推進と、人(財)育成に努めています。全国各地で震災や水害等、大規模な自然災害が多発しておりますが、このような困難な時代においても、私達はその歩みを止めず、農業の収益性向上・競争力強化並びに防災・減災・国土強靱化を目指した「産業政策」と農村の地域資源の保全・活用や地域社会の維持・活性化を目指した「地域政策」を支援し、熊本県の農業・農村の政策実現に大きく貢献して参ります。

会務遂行スローガン



目次 - Table of Contents -

産業政策

- ・ 基盤整備事業による波及効果の発揮を見据えた基礎的支援 … P1
- ・ 国の重点施策への対応 ～農地の持続的利用に向けた支援～ … P3
- ・ 農業水利施設に関する技術的支援と災害への備え … P5
- ・ 国土強靱化に向けた農業用ため池整備に関する支援 … P7

地域政策

- ・ 農業・農村の多面的機能を次世代に繋ぐ地域や土地改良区の活動を支援 … P9

その他

- ・ 土地改良区の運営基盤の強化、県内及び全国へ水土里ネットの役割りをPRする活動 … P11

基盤整備事業による波及効果の発揮を見据えた基礎的支援

将来を見据えた基盤整備事業との関わりが

農業農村を元気に

熊本県の基幹産業である農業。農業が産業として有り続けるためには、担い手の育成、高収益作物の導入、効率的な営農の展開を実現する基盤整備事業の計画的な実施、更にはその機能を長寿命化する取り組みが不可欠です。

水土里ネット熊本は、これまで、県内各地域の基盤整備事業に事業構想段階から計画し、調査、測量、設計、換地などのあらゆる分野に携わってきました。そして、事業完了後も地元へ寄り添い、施設の長寿命化に向けた維持管理を支援するなど、基盤整備事業に多角的かつ深く関わり続けてきました。

基盤整備事業への長期にわたる関わりは、農産物の生産性や品質の向上に限らず、担い手の育成や農地利用集積の向上、収益性の高い作物の導入を実現しています。

また、基盤整備の効果は直接的な効果に留まらず、新たな雇用創出や地産地消など波及的な広がりを見せ、県内各地の農業・農村を元気にしています。

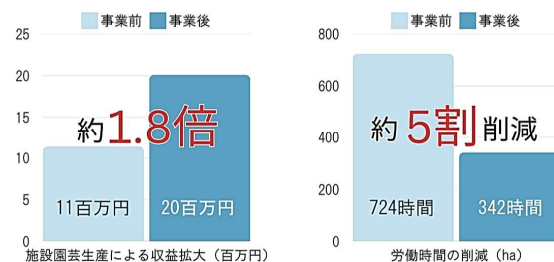
水土里ネット熊本は、農村地域における将来の波及効果の発揮を見据え、県内各地の基盤整備事業を下支えしています。

令和6年度農業農村整備優良地区コンクール
(中山間地域等振興部門) 推薦地区

農業農村整備優良地区コンクール 受賞履歴 (令和以降)
▷令和元年度: 八代市鶴喰地区 (全国水土里ネット会長賞)
▷令和2年度: 山鹿市岳間地区 (農林振興局長賞)
▷令和3年度: 和水町十町地区 (農林振興局長賞)
▷令和4年度: 宇城市大口地区 (農林振興局長賞)
▷令和5年度: 菊池市佐野地区 (農林水産大臣賞)
▷令和6年度: 山都町名ヶ地区 (推薦地区)

水土里ネット熊本と
基盤整備事業の関わり地区を
学ぶ・基礎調査
・地元意向把握等将来を想い
描く・事業計画
・換地原案等資産を
守り続ける

・維持管理等

未来を
形にする・実施設計、現場管理
・確定測量、換地処分等基盤整備による
農家所得の向上と労働時間の削減 -直接効果-
優良事例【山都町（名ヶ地区）】基盤整備が生み出す - 波及効果 -
山都町 名ヶ地区

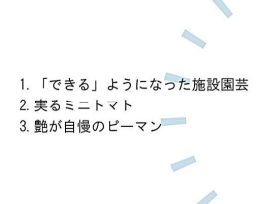
名ヶ地区は、山都町南部の急峻な山々に囲まれた田園地帯で、名ヶ川を水源に水稻を中心とした営農が行われていました。従来の農地は不整形で狭小、用排水路や農道が整備されておらず、野生動物による被害も多く、農作業に支障をきたしていました。

平成22年から始まった「県営中山間地域整備事業」により、農地が整備され、効率的な農作業や高収益作物の導入が可能となり収益が約1.8倍増加しています。

また、「野生動物から作物を守る対策」も容易となり、作物への被害も減少しています。この対策は本地区に留まらず、地域全体に効果的な取り組みとして広がり、本事業を通じて地域営農が豊かになる「キッカケ」になっています。

波及効果Ⅰ

地域ぐるみで作物をつくる

1. 「できる」ようになった施設園芸
2. 実るミニトマト
3. 艶が自慢のピーマン▲道の駅に並ぶかけ干し米
地域住民に向けて売り出し中▲地域で栽培された瑞々しさが
自慢の獲れたて野菜

基盤整備により農地が整形され、名ヶ地区では水稻に加えて施設園芸にも取り組みができるようになりました。現在、トマト、ピーマン、いちごなどを生産し、収益が増加しています。

整備によって農家の意識にも変化が生じ、令和3年度には「農事組合法人いちよう」が設立されました。水稻ではかけ干しを行い、「真空パック米」として加工・販売するなど、地域をまとめ、農作物のブランド化や販路確保に取り組んでいます。

生産者
生産品

波及効果Ⅱ

地域を興す、未来へツナグ

地域
おこし
協力隊

私たちも力に!



地域農業や法人の運営に一役を買っている地域おこし協力隊のメンバー。彼らは県外から本地域に移住し、法人の経営や販売、さらには広報に至るまで事業の根幹を支える存在となっています。その結果、収益の大幅な増加を実現し、地域全体の活性化に寄与しています。



地域の農業を支える「農事組合法人いちよう」のメンバー。美しい農村地域を守るために尽力し、今では地域営農の旗印となっています。様々な活動をSNSで配信し「美味しい情報」を届けます。

農事
組合法人 いちよう収穫
祭

～初めての試み～2023.11.26

「食と活気、地域に彩りを。」

基盤整備事業の
一番の理解者であり続けることが
未来の農業の力に

水土里ネット熊本は、これまで、そしてこれからも、熊本の農業を支える基盤整備事業の一番の理解者であり続けます。そのことが熊本県の未来の農業を支えていく力になると信じています。

農業水利施設に関する技術的支援と災害への備え

農業水利施設等の

保全管理に関する技術的支援

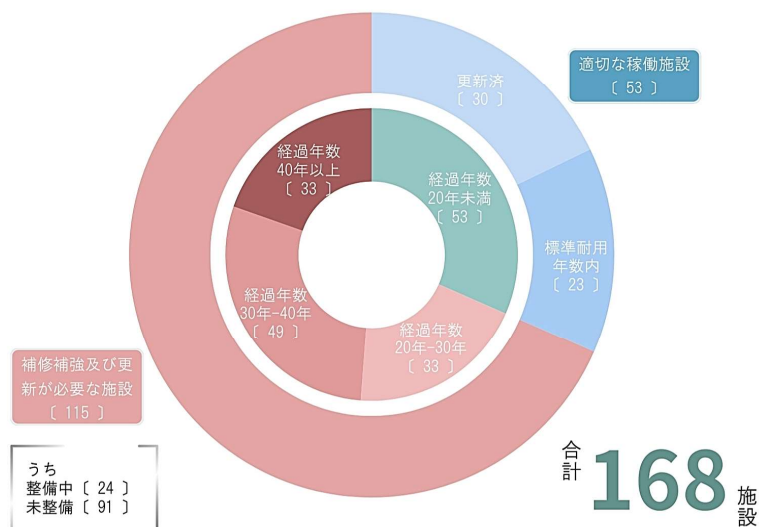
農業水利施設は、食料の安定供給を支える基幹施設であるとともに、洪水防止、水質浄化、防火用水などの多面的機能を有し、地域にとっても重要な社会資本となっています。

しかし、県内の多くの施設は造成から長い年月が経過しており、特に排水機場では、『168』箇所のうち約7割に当たる『115』箇所で耐用年数20年を超過（うち80箇所においては30年以上が経過）し、突発事故等による湛水被害も危惧されるため計画的な施設更新が急務となっています。

水土里ネット熊本は、施設の更新整備が実施されるまでの間、これらの施設が、突発的な災害に耐え、必要な機能が適正かつ安定的に発揮されるよう、施設の診断・管理指導、整備補修、点検、技術者派遣等、幅広い技術的支援を行っています。

熊本県内の排水機場個所数と経過年数の関係及び整備状況（R7.1月時点）

単位：箇所
提供：熊本県

導く | 診断・管理指導・研修・教育
【土地改良区体制強化事業】

▶施設管理者に対し、操作運転、点検・整備、機能保全等の現地指導を実施。

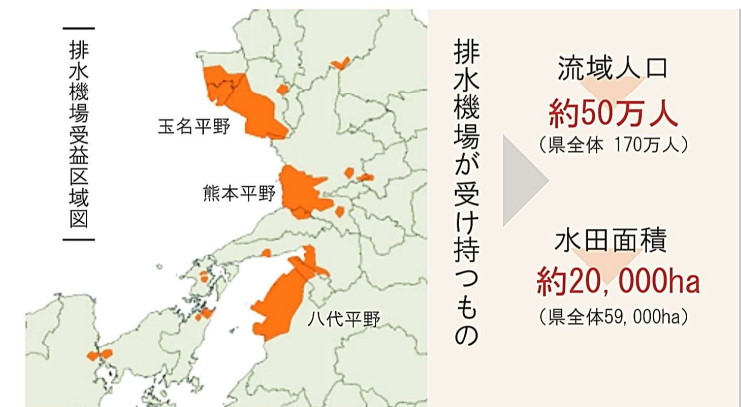
防ぐ | 点検
【排水機場等管理業務】

▶施設の適切な点検が不具合の早期発見に繋がり、施設の機能保持及び事故発生リスクを低減。

補う | 整備補修
【土地改良施設維持管理適正化事業】

▶施設の定期的な整備補修を実施。施設管理者の管理意識高揚、既存施設の機能保持と長寿命化を図る。

農地の保全と、わたしたちの暮らしのために



水土里ネット熊本は、農業水利施設等が多面的機能を適正かつ安定的に発揮できるよう、施設の保全や診断・管理指導、整備・補修、点検、技術者派遣といった幅広い技術的支援を行っています。

これまでの「導く」、「防ぐ」、「補う」の取り組みが、県内各地の農業水利施設等の機能を適切に維持・保全し、農業用水の安定供給や施設の長寿命化によるライフサイクルコスト低減に繋がっています。それらが、多彩で効率的な営農の実現に寄与するとともに、農村地域の安全・安心な暮らしにも大きく貢献しています。

農業水利施設等の

オールラウンダーとして
地域の暮らしを安心・安全に

突発的な災害への備えと支援

私たち水土里ネット熊本は、平成28年の熊本地震、そして令和2年7月豪雨災害という2度にわたる未曾有の大災害を経験しました。その教訓として、自然災害に対する備えを万全とするため、日々測量・設計技術の研鑽並びに災害等における支援体制の強化を図っています。

災害発災直後の初動対応や関係機関との協力・要請、そして円滑な災害査定を可能とし、計画的な災害査定完了を実現します。

あつてはならない災害ですが、水土里ネット熊本は、これまでも、そしてこれからも、市町村や土地改良区にとって「無くてはならない災害の備え」として在り続けます。

「令和6年能登半島地震」への支援



被災した石川県能登地域



石川県災害派遣壮行式

令和6年1月1日に石川県能登地方でマグニチュード7.6、志賀町で震度7を観測した他、北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測する大地震が発生しました。本会は地震発生後、直ちに支援物資の提供を行うとともに、農業集落排水の被害調査を行うために2名の職員を派遣しました。また、9月～10月にかけて、石川県志賀町へ災害査定設計書作成の支援として、5名の職員の派遣を行い被災地の復旧・復興に尽力しました。本県において2度の大災害を経験した私たちだからこそ、これまでに蓄積された貴重な経験を活かし、全国に向けて支援の輪を広げています。

大災害を経験したからこそ
“できること”



▼発災からの支援の軌跡

- 2024.1.1 石川県能登半島において最大震度7、M7.6の地震が発生。
- 2024.1.26 本会より緊急支援物資を提供。久保部長及び林田課長両名による現地状況の確認を行う。
- 2024.1.29 農業集落排水の被害調査を行うために本会職員2名を派遣。
- 2024.9.2 災害査定設計書作成に係る現地調査・測量等を行うために本会職員5名を派遣。
- 2024.10.31



- 1 支援物資搬送車出発式
- 2 6年2月 農業集落排水の被災状況調査 石川県志賀町
- 3 R6年9月～10月災害査定設計書作成 石川県志賀町

蓄積された経験値
支援の輪を全国へ

国土強靱化に向けた農業用ため池整備に関する支援

「ため池」を後世に繋ぎ

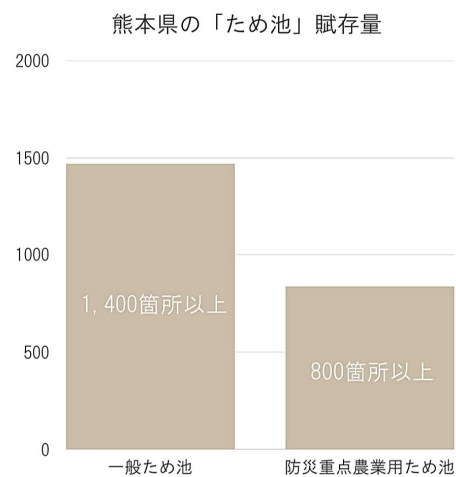
地域の未来を整える

農業用ため池の多くは、古代から近代に渡り稲作文化が成熟する歴史の中で築造され、現代に至っても田畑を潤し、地域を護る要として、私たちの営みの中に深く溶け込んでいます。この農業用ため池は、多くの先人たちが試行錯誤を繰り返すなかで造られ、幾多の世代を超え引き継がれてきたかけがえのない「モノ」です。

今を生きる私たちも、この農業用ため池を守り続けるとともに、これから100年のふるさとへの営みに安心を与えるため、持てる知識と技術、経験を織り交ぜ次の世代に繋ぐ責任があります。

このような中、四半世紀ぶりに改正された食料・農業・農村基本法においては、これまでの施設の整備に加え、新たに『保全』について追記されました。

今後、皆様がため池を適切に管理し、将来を見据えた『保全』を図るうえで必要となる防災工事を推進していくため、公益性と社会的信頼を備える私たち水土里ネット熊本は、これまで構築した繋がりや培った技術をもって支援してまいります。



その多くが、
未整備のため池



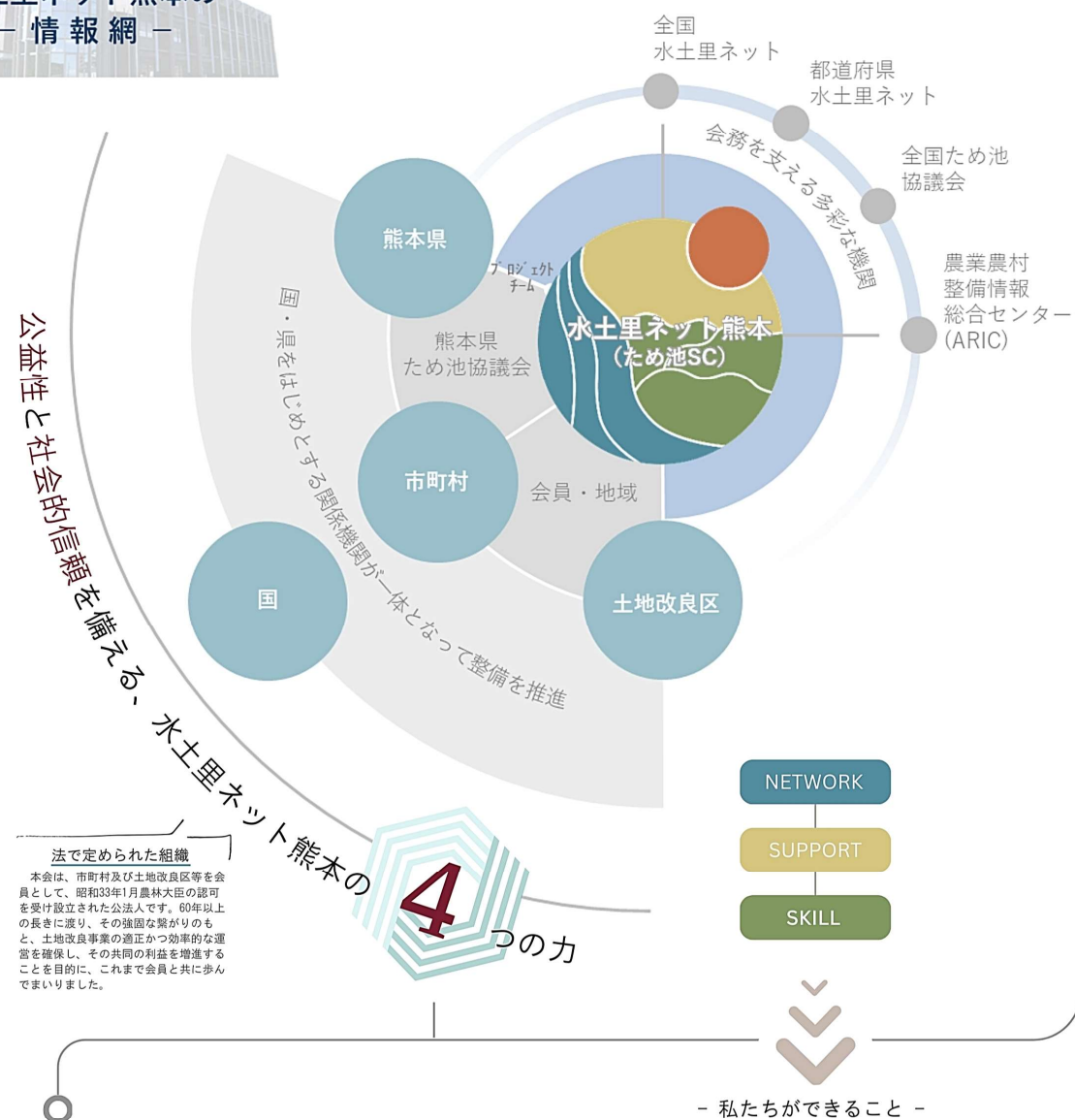
Tameike -適切な保全管理に向けて-

熊本県の「防災重点農業用ため池」を集中的かつ計画的に整備するために、本会は令和6年11月にパンフレットを作成しました。



詳細はこちら▲

水土里ネット熊本の
— 情報網 —

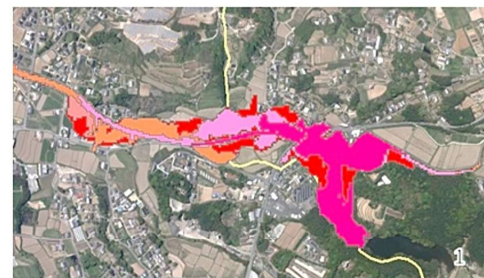


- 私たちができること -

NETWORK

地域を繋ぐ包括的ネットワーク

本会は土地改良法に基づき設立され、国や熊本県などと連携し、最新情報を共有しています。「くまもと水土里GIS」と会員が保有するGIS情報を共有することで、ため池決壊時の影響等を具体的・多角的に想定することが可能となります。



凡例 (ため池決壊時の浸水想定時間)

60分以内 30分以内 15分以内 10分以内 5分以内

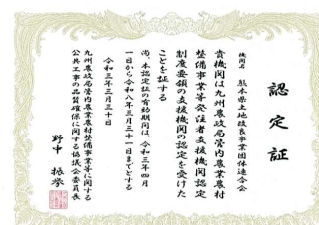
GISで管理するため池のハザードマップ

IDEA

ため池が地域に欠かせないモノであり続けるために

本会は、品確法による発注者支援機関への認定に加え、土地改良法の改正に伴い、会員からの委託を受けて土地改良事業の工事施行事務を行うことが出来るようになったことから、事業の構想から工事完了まで、どのフェーズにおいても対応することが可能となりました。

多様な人材をフル活用し、会員の皆様が抱える様々な課題の解決に向け、与えられた責務を全うし、防災工事のみならず、その後50年、100年続くため池の保全管理を通じ、それぞれの地域に寄り添ってまいります。

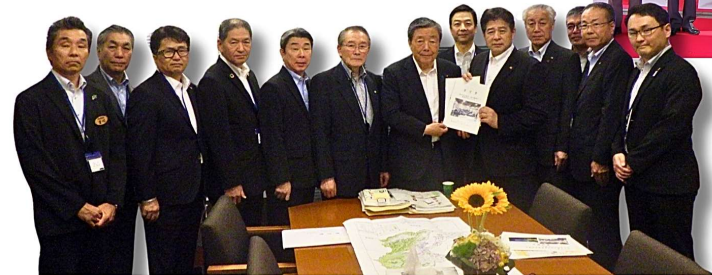


本会有する発注者支援機関に係る認定証

SUPPORT

ため池を守るためのきめ細やかな支援体制

令和3年6月に開設された「熊本県ため池サポートセンター」は、約800箇所の防重ため池の点検や管理者への指導、研修を行い、適正な保全管理を推進しています。また、熊本県ため池協議会の事務局として、一般ため池の現状や課題を整理し、農林水産省や財務省、国会議員への要請活動を通じて、関連施策の提案や予算確保に取り組んでいます。



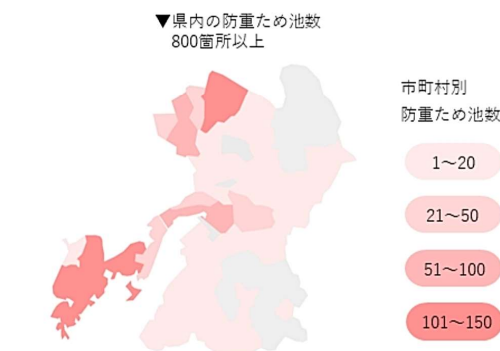
▲令和3年6月ため池サポートセンター開所
写真中央：熊本県木村知事（当時：副知事）

▲熊本県ため池協議会による要請・要望活動
（左から7番目：森山自民党幹事長（当時：総務会長）

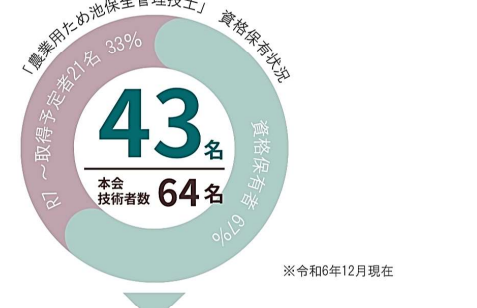
SKILL

多様な業務経験に基づく豊富な知見と高い技術力

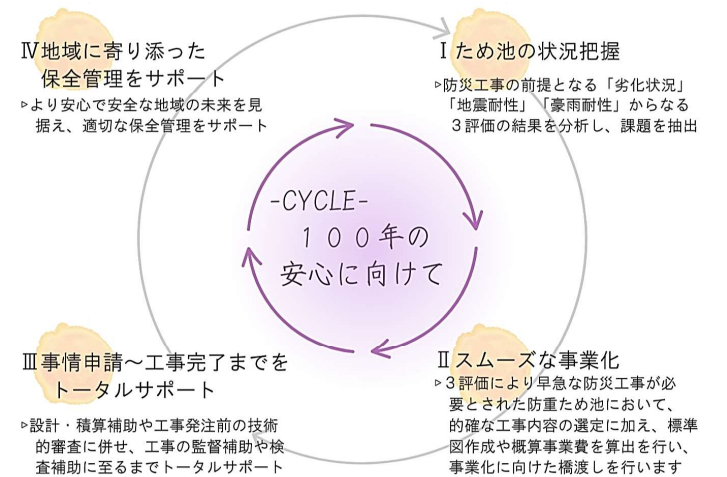
本会は熊本県から委託を受け、令和3年度よりため池劣化状況評価を実施し情報を一元管理しています。防災工事の提案や精度の高い費用算定で会員を支援し、全員の資格取得を目指すことでため池管理者や会員に対して適切な技術的助言を行います。



▲長洲町
下鴻ノ池竣工写真
○基本設計から実施設計を
本会が実施



目標資格取得率
100 %



農業・農村の多面的機能を次世代に繋ぐ地域や土地改良区の活動を支援

『水』『土』『里』の美しさを

次世代に繋ぐパートナーとして

農業・農村が持つ多面的機能は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等、その発揮により県民に多くの恩恵をもたらしています。

しかし、農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下に加え、近年の激甚化する豪雨災害等の影響により、地域の共同活動に支えられている多面的機能に支障を来しつつあります。

そのため、土地改良区と水土里ネット熊本は、県内各地で「田んぼの学校」を始めとする様々な活動や「田んぼダム」の普及啓発を目的とした取り組みを展開し、将来を担う地域の子どもたちや住民の農業・農村に対する理解の醸成に努めています。

また、国、熊本県並びに市町村、各地域の土地改良区と連携しながら「熊本県多面的機能支払推進協議会」の事務局として、県内の活動組織が適切に実施することができるよう、研修会等での指導・助言、各種会議での情報発信、制度に対する理解促進のための広報活動など、幅広い取り組みにより活動組織及び行政の支援を行っています。

水土里ネット熊本は、これからも、土地改良区の活動や多面的機能支払の活動を支える地域のパートナーとして、地域の資産（たから）である『水』、『土』、『里』の美しさを次世代へ継承して参ります。

導く

事務研修
抽出検査



- 1 本会職員による技術講習会を実施。活動組織へ事業実施に係る指導・助言をおこなう。
- 2 目地補修等技術講習会を実施。専門家を招聘し構成員の技術力向上を目指す。

取り組みのねらい

制度理解促進

指導力向上

技術力向上

築く

新規役員研修会
広域化推進勉強会



- 1 広域化推進の説明会に参加し、広域について質疑応答を実施。
- 2 広域組織と活動組織が開催する勉強会へ参加。地域の事務局に対して制度説明や疑問編の回答を実施。

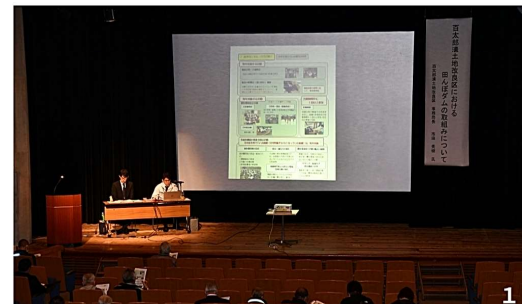
取り組みのねらい

地元事務局の課題解決理解促進

事務負担軽減

広げる

田んぼダムの取組推進、普及・拡大



- 1 県内各地でブロック会議を実施。事例発表等をおこない各組織の知見を高める。
- 2 将来を見据えた普及・啓発を目的とする田んぼダムイベントを熊本県と連携して実施。

取り組みのねらい

田んぼダムの取組推進

防災・減災意識の向上

繋がる「人」、引き継ぐ「地域資源」、

発揮される「農村の力」

水土里ネット熊本の「導く」、「築く」、「広げる」の幅広い取り組みが、人と人を引き寄せ、地域の資産（たから）を次世代へ継承し、県内各地域における多面的機能の維持・発揮に大きく貢献しています。



水・土・里の美しさを次世代へ

1. 景観配慮に向けたヒガンバナ植栽（高森町多面的機能支払活動組織広域協定運営委員会）
2. 農地法面の管理を行う活動（北稜尾地域資源保全隊）
3. 自分たちで資産を守るための研修（あさぎり町 技術講習会）



熊本の取り組みを全国に発信

農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム

～広域組織ひとつでたすけあう地域のちから・つながる未来～

本 シンポジウムは、令和6年11月に東京で開催され、本会久保田常務理事が「広域組織ひとつでたすけあう地域のちから・つながる未来」と題し講演を行いました。

田んぼダムの取組推進 この講演では、熊本県における取組概要や激甚災害からの復興として本交付金を活用した復旧事例紹介、「田んぼダム」の取組として熊本県が先頭に立ち拡大を目指している「緑の流域治水の推進」の説明が行われました。特に「田んぼダム」の推進に関しては「田んぼダムはハード整備ではなく、合意形成に基づく地域の取組として広げていくべき」との考えを示しました。

理想の広域組織とは また、県内54広域組織のうちのひとつである「山鹿地域広域協定運営委員会」の事例を紹介しました。山鹿市における土地改良区の合併や担い手不足、活動における煩雑な事務処理や会計管理などにより、活動組織が多くの課題を抱えていた中、行政が主導となり「今はいいかもしれないが、10年後20年後に同じように続けられませんか」と説得を続けたことで徐々に広域化の輪が広がり、現在の組織が設立され、大きな効果を発揮しているとの説明を行いました。

未来につなぐくまもの地下水 さらに、世界的半導体メーカー「TSMC」の課題にも触れ、熊本の地下水を守り、未来へ繋げるために行っている地下水涵養の取り組みや、国の「中山間ふるさと水と土基金」、棚田基金を活用した「田んぼハイスクール」の説明を行いました。



▲シンポジウム開催状況
久保田常務理事による講演▶



本講演のタイトルである「広域組織ひとつでたすけあう地域のちから・つながる未来」について触れ、「タイトルが長く、ひらがなを多く使っているが、ひらがなが持つ柔らかさや親しみやすさが、子どもから高齢者まで参加する本交付金の活動を表現するにふさわしい」との考えを述べ講演を終えました。

昨年改正された「食料・農業・農村基本法」において、本交付金の果たす役割が益々重要視されており、私たちはこれからは地域のニーズに寄り添った支援を続け、地域の活性化の助けとなるよう尽力して参ります。

土地改良区の運営基盤の強化、県内及び全国へ水土里ネットの役割りをPRする活動

農業・農村を支えること、
それは土地改良区と寄り添い、ともに歩むこと

食料の安定供給の基盤として必要不可欠な土地改良施設を管理する県内各地の土地改良区。

現在、その土地改良区は組合員の減少や高齢化、土地持ち非農家の増加等により組織力の低下を招き、将来にわたる土地改良施設の適切な維持管理や更新が危惧されています。

また、土地改良区等においては、複式簿記移行から数年が経過し、会計処理に係る理解が深まっております。そのため、相談が増加傾向にあり、より専門的な支援が必要となっております。

水土里ネット熊本は、本会の会計指導員や顧問弁護士と

財務基盤の強化 【複式簿記導入への支援】

会計指導員による万全なフォロー体制

土地改良区等において、複式簿記による会計業務が円滑に進むよう、農林水産省から認定を受けた会計指導員が土地改良区へ順次訪問し、複式簿記の指導を実施しています。

また、土地改良区等において、複式簿記への理解が深まることで生じる疑問点や会計処理に対する不安等を解消するため、専属の係（財務指導係）が主体となって複式簿記に関する研修会の企画・開催や複式簿記に係る巡回指導、会計処理に係る相談受付を実施しています。きめ細やかな支援を実施する体制は万全です。



－ 複式簿記導入のねらい －

資産管理
の効率化

不正
防 止

コスト意識
の高揚

ともに、複式簿記の導入による財務基盤の強化を初め、紛争処理等のための相談窓口の設置、土地改良区の役職員等に向けた各種研修会の企画・開催等を実施するなど、万全なフォロー体制と豊富な支援メニューで土地改良区の運営基盤の強化に努めています。

また、様々な広報ツールやイベント、研修会等を通じ、幅広い世代に対して土地改良区や農業・農村に関するさらなる認知度の向上、理解促進を図っています。

水土里ネット熊本は、これからも土地改良区の皆様と寄り添い共に歩むことで、熊本県の農業・農村を支え続けていきます。

財務・運営基盤の強化 【指導監査の実施】

「寄り添う監査」で安定した運営を

土地改良法改正に伴い員外監事の選任が必要となりましたが、その免責要件の一つとして土地改良連合会と指導監査契約を結ぶことが挙げられます。そのため、複数の土地改良区から本会に指導監査を求める声が寄せられておりました。

土地改良区の運営・財務基盤の強化に寄与するため、令和6年度から本会会計指導員による指導監査業務を指導しました。



－新たな取り組み－
この度、「指導監査」業務のチラシを作成しました。
本会が、土地改良区の安定した運営にお力添えします。



水土里ネットの 魅力を全国へ



1. 本会ホームページ
2. リニューアルした「みどり通信」
3. 本会広報誌「大地」

水土里ネット熊本は、みどり通信、ポスター、広報誌「大地」、ホームページ等を通じ、会員情報や本会の活動等について県内及び全国に幅広く水土里ネットの魅力を発信しています。



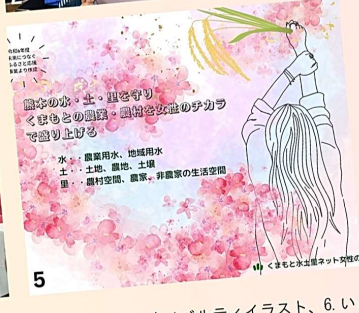
1. 田んぼの学校in百太郎溝
2. 森林の学校inあさぎり町
3. 龍田西小学校2年生による「まちたんけん学習」
4. くまもと農業フェア2024
5. イオンモール（株）イベント「熊本の棚田を知ろう！」

支える

広める

「くまもと水土里ネット女性の会」の活動紹介

「くまもと水土里ネット女性の会」は平成30年度に発足し、県内土地改良区、熊本県、水土里ネット熊本の総勢93名が会員となり活動しています。



1. 2. 水土里マルシェ、3. 研修会、4. 農業農村整備の集い、5. 女性の会ノベルティイラスト、6. いどばた会議

女性の活躍が 農業・農村をますます元気に

「全国水土里ネット女性の会」会長に
会員支援課 西 彩 課長が就任



この度、全国水土里ネット女性の会の会長を拝命いたしました、西彩でございます。これまで様々な業務を通じて、多くの地域の方々と共に活動してまいりました。その経験を活かし、全国規模で地域の女性たちが更に活躍できる場を提供し、地域づくりに貢献できるよう尽力してまいります。また、女性の視点から、農村地域の課題解決に向けた取り組みを強化し、熊本、全国の水土里ネットの活動を一層充実させていきたいと考えております。皆様のご支援とご協力を賜りながら、より良い社会づくりに貢献していく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

